

# 師と生徒 書の競演

中区で作品展

浜松市を中心に県内外の書道の指導者と生徒でつくる浜松書道研究会の作品展「書研展」が六日、同市中区のクリエート浜松で始まった。十一日まで「写真」。

園児から九十代までの約千三百人が一点ずつ出品。今年らしい「令和」や、英



語を交えた横書きの斬新な書など、自由な発想で思い思いに筆を運んだ作品が並び。

中沢卓揚会長(オモ)は約二千年前に使われていたとされる篆書体で「有難」と書き、何事にも感謝する気持ちを表現した。中沢会長は「賞を付けていないので、自由な表現の作品がそろっている。指導者と生徒の作品が同時に楽しめるのもポイント」と見どころを語る。

(篠塚辰徳)

2019.8.7

中日新聞(朝刊)P.14